

令和6年度 施策評価シート

施策の名称	IV-2-(4) 関係人口の拡大	幹事 部局	地域振興部
施策の目的	都市部にいながら何らかの形で島根と関わりたいと希望する人々を掘り起こし、県内での活動の場を提供して、地域活性化への貢献や将来の移住につなげます。		
施策の現状に対する評価	<p><u>①(関係人口の拡大と地域貢献の促進)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> しまことアカデミーや東京・大阪での関係人口に関するセミナー等の取組により、都市部の方々の島根県への理解が促進され、関係人口の掘り起こしにつながっている。 県内における関係人口受入れ機運の醸成や受入れ支援を行うため、研修会の開催やアドバイザーの派遣等を実施してきた結果、地域側の関係人口に関する理解が進んできている。 しまね関係人口マッチング・交流サイト「しまっち！」について、前年度比で登録された地域団体(オーナー数)は2.5倍、登録された関係人口(サポーター数)は3倍に増え、マッチング件数は前年度比2倍と順調に増えている。 一方で、関係人口セミナー等の参加者について、「しまっち！」サポーターに登録し地域で活動することを呼びかけるなど、直接島根に関わる機会を創出できていないことが課題である。 <p><u>②(島根を応援する人を増やすための情報発信と交流の場づくり)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「リメンバーしまね」では、令和3年度末にサイトをリニューアルしたが、引き続き新たな団員獲得やサイトの活性化が課題である。 島根への感謝や貢献したいという考えを有する方々に、ふるさと島根寄附金制度の活用してもらえよう、ふるさと島根寄附金制度の効果的な周知が課題である。 <p><u>(前年度の評価後に見直した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 関係人口セミナー受講者等について「しまっち!」「しまね登録」への登録を促し、データを把握することで関係の深まりを定量的に捉える方策を進めることとした。 		
今後の取組の方向性	<p><u>①(関係人口の拡大と地域貢献の促進)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> セミナー受講者について、「しまっち!」サポーター登録及び「しまね登録」を促すなど、直接島根県に関わっていただく機会をこれまで以上に創出する。 マッチング後も関係人口が地域に関わるよう、ニーズの把握等を進めて地域活動へ継続して参加してもらう仕組みづくりを進める。 地域の関係人口受入れ機運の醸成については、市町村研修会等を開催し、市町村と連携して進める。 関わりを深めた方の中で将来的な移住に関心がある層については、「しまね登録」を通じて必要な情報を随時提供する。 <p><u>②(島根を応援する人を増やすための情報発信と交流の場づくり)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「もっとリメンバーしまね」サイトについて、登録者同士や県内の各種団体等との交流がしやすく、また、新たな団員の獲得につながるようなサイト運営を行っていくとともに、公式Instagramにより若い世代への訴求を図る。引き続き、事業目的に適したプラットフォームのあり方を検討する。 ふるさと島根寄附金における寄附金の活用目的、活用事業等の周知に更に取り組むとともに、寄附者に対しては、継続的なつながりが持てるよう定期的な情報発信に取り組む。 		

事務事業の一覧

施策の名称	IV-2-(4) 関係人口の拡大
-------	------------------

	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	ふるさと島根寄附金	国民	ふるさと納税のPRを最小の経費で効果的に行い、寄附を通じて島根に関心を持つ人や島根を応援する人の増加に寄与する。	35,570	62,198	政策企画監室
2	島根を創る人づくりプロジェクト	県民(主に若年層)	島根の次代を担う若者の「育成」と「環流」を一体的・系統的に推し進め、県内定着等の一層の促進を図る。	10,290	10,290	政策企画監室
3	島根県の認知度向上対策事業	県外在住者	島根の魅力や島根らしさの情報発信を行うことで県の認知度を向上させる。	21,787	24,493	広聴広報課
4	しまね関係人口・移住促進事業	地域への関わりを希望する者	島根に関わりたいと希望する人々を掘り起こし、県内での活躍の場を提供して、地域活性化への貢献や将来の移住につなげる。	64,595	79,621	しまね暮らし推進課
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

政策企画監室

事務事業の名称		ふるさと島根寄附金				
目的	誰(何)を対象として	国民	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額	
	どのような状態を目指すのか	ふるさと納税のPRを最小の経費で効果的に行い、寄附を通じて島根に関心を持つ人や島根を応援する人の増加に寄与する。		35,570	62,198	
			うち一般財源 (千円)	10,077	18,661	
令和6年度の取組内容		・ふるさと島根寄附金条例に基づき収受した寄附金を基金へ積み立て、県の行う事業の推進のために活用するとともに、制度の活性化を図るために、パンフレット等によるPR、県産品の贈呈、クレジットカード等による寄附金収納事務を行う。 ・総務省からは、「ふるさと納税に係る指定制度」が導入され、返礼品の取り扱いがルール化されるとともに、制度の運営にあたり市町村への助言・支援を行うことが求められており、相談対応、情報提供及び意見交換を行う。				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと						
1	上位の施策	IV-2-(4) 関係人口の拡大	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	ふるさと島根寄附金の寄附件数【当該年度4月～3月】	目標値		2,000.0	2,000.0	2,000.0	2,000.0	2,000.0	件	単年度値
		実績値	1,318.0	2,038.0	1,836.0	1,429.0	1,324.0			
		達成率	—	101.9	91.8	71.5	66.2	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・令和5年度実績 寄附件数は前年度より105件の減、寄附金額：25,491千円(昨年度より7,619千円の減) ・ふるさと納税を実施する団体においては、令和元年6月より「ふるさと納税に係る指定制度」が導入され、総務省の指定を受けることが必要となった。指定を受けるにあたっては返礼品について次の基準を満たす必要があるほか、返礼品を強調した広告や返礼品を主とした内容のパンフレットの不特定多数への配布はできない。①寄附金に占める返礼品の割合が3割以下であること、②寄附金に占める返礼品と事務費を含めた割合が5割以下であること、③国の基準を満たす地場産品に限られる。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	コース別としていた寄附金額設定をなくし、返礼品の価格に応じた寄附額ができるよう変更した。また、贈呈する返礼品に新たな品を加えるなど、より魅力的な県産品の選定に努めた。
課題分析	①課題	実績値がR2年度に目標値を達成して以降、目標値に達する寄附件数が得られず、R5年度は目標値の66%に留まっている。
	②原因	上記①(課題)が発生している原因
	③方向性	・寄附者に対して制度の趣旨、寄附金活用の理解をより促すため、活用事業の詳細をホームページでわかりやすく伝えるなど更なるPRの方法を検討する。 ・引き続き寄附金を活用した事業の実績報告書を作成し、寄附者に対してメールや郵送等により周知する。また、他部局と連携し、寄附者への継続的な繋がりを保つための取組を更に強化する。 ・県内の市町村に対する寄附に大きな影響を与えるような取組は控えながらも、県の施策や活用事業のPRを行い、寄附額を増やす工夫を行うことなどにより、県全体の寄附の増加と、返礼品の贈呈による特産品を含む本県の魅力の発信を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

政策企画監室

事務事業の名称		島根を創る人づくりプロジェクト			
目的	誰(何)を対象として	県民(主に若年層)	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の次代を担う若者の「育成」と「環流」を一体的・系統的に推し進め、県内定着等の一層の促進を図る。		10,290	10,290
			うち一般財源 (千円)	10,290	10,290
令和6年度の取組内容		・プロジェクトの進捗管理、評価・検証のために作成した、主要な取組に係るロードマップに基づき、実践評価改善点の洗い出しを行う。 ・就職に直結することが多いとされるインターンシップの強化に向けて、関係部局やしまね産学官人材育成コンソーシアムと連携した取組を行う。			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	IV-1-(1) 学校と地域の協働による人づくり	3	上位の施策	IV-1-(3) 地域を担う人づくり
2	上位の施策	IV-2-(1) しまねの「暮らし」や「魅力」の情報発信	4	上位の施策	IV-2-(2) 若者の県内就職の促進

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	県内大学等の県内就職率【当該年度3月時点】	目標値		36.1	36.9	37.7	38.5	39.4	%	単年度 値
		実績値	29.4	32.7	37.9	34.7	32.3			
		達成率	—	90.6	102.8	92.1	83.9	—		
2	県外4年制大学の島根県出身者の県内就職率【当該年度3月時点】	目標値		29.0	30.0	30.0	31.0	31.0	%	単年度 値
		実績値	26.6	27.9	30.9	30.2	28.8			
		達成率	—	96.3	103.0	100.7	93.0	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		(しまね産学官人材育成コンソーシアムのKPI) ・県内高等教育機関卒業生の県内就職率 令和5年度 32.3%(令和6年度目標値 39.4%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・本プロジェクトにかかる事業の評価・検証ツールとして、主要な取組についてロードマップを作成し、進捗管理を行った。 ・「しまね登録」については、登録率が低調であったことから、高校生に登録を呼びかけるスケジュールを前倒しするなど、登録者数が増加するようこれまでの取組内容を見直した。 ・山陽地方での取組を強化するため、学生就職アドバイザー業務を委託することで学生との低学年次からのつながりづくりを展開したことから、減少傾向が続いていた中国地方からのUターンが令和5年度に対前年度比で微増した。
課題分析	① 課題	・15歳～24歳の若年層の就学、卒業及び就職を理由とする転出超過が続いている。 ・島根県出身の学生へ県内就職に役立つ情報等を届ける上での命綱である「しまね登録」の登録率が低い。 ・大学生の県内就職に関し、影響力を持つ保護者への働きかけが十分ではない。 ・昨年度と同様、対平成27年度比で、20代のUターン者は約30%、30代は約40%の減少。30代のUターン者は減少傾向にある。
	② 原因	・しまね登録で配信されるコンテンツに魅力が不足している等の理由により、登録することによるメリットが学生に実感されていない。また、保護者・教員等関係者間でも、その有益性、必要性が十分には理解されていない。 ・保護者への直接的なアプローチや、本プロジェクトの取組への理解に向けたPR・周知ができていない。 ・少子化の影響等で県外の島根県出身者も減少しており、また、Uターンについても、全国で自治体間の競争が激しくなっている。
	③ 方向性	・関係者でロードマップによる進捗管理、評価・検証を行う過程で、ロードマップに盛り込んでいる具体的な取組(しまね登録や保護者対策など)に関して不十分な点があれば改善を行う。 ・市町村を含めた関係者と連携してプロジェクトを効率的に実施するために、可能な限り情報共有を行う。また、本プロジェクトの取組内容や成果等についての周知、PRを図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

広聴広報課

事務事業の名称		島根県の認知度向上対策事業			
目的	誰(何)を対象として	県外在住者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の魅力や島根らしさの情報発信を行うことで県の認知度を向上させる		21,787	24,493
			うち一般財源 (千円)	21,787	24,493
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・県外への情報提供(遣島使): 県情報の提供等により遣島使のPR活動を支援 ・県外への情報提供(県人会): 県情報の提供、県外在住功労者への表彰などにより県人会の活動を支援 ・島根の応援団ネットワーク事業: 島根県応援サイト「もっとメンバーしまね」の運営により島根を応援する方を増やすため情報発信を実施 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・「もっとメンバーしまね」について、若い世代にも訴求するSNSを活用した情報発信を行っていくとともに、事業目的に適したプラットフォームのあり方について検討を行う。 			
1	上位の施策	IV-2-(1) しまねの「暮らし」や「魅力」の情報発信	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-2-(4) 関係人口の拡大	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県応援サイト「メンバーしまね」総団員数【当該年度3月時点】	目標値		23,500.0	23,900.0	24,300.0	24,700.0	25,100.0	人	累計値
		実績値	23,070.0	23,245.0	23,293.0	23,462.0	23,502.0			
		達成率	—	99.0	97.5	96.6	95.2	—		
2	島根県応援サイト「メンバーしまね」新規登録者数【当該年度4月～3月】	目標値		600.0	600.0	600.0	600.0	600.0	人	単年度値
		実績値	465.0	367.0	249.0	246.0	104.0			
		達成率	—	61.2	41.5	41.0	17.4	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーしまねの登録団員のうち県外在住者数(R5年度末) 20,376人(団員に占める割合 86.7%) ・メンバーしまねの新規登録団員のうち県外在住者数(R5年度) 72人(新規団員に占める割合 69.2%) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっとメンバーしまね」公式Instagramフォロワー数(R5年度末)1,869人(R4年度末1,587人、R3年度末1,463人、R2年度末1,108人から増加) ・「もっとメンバーしまね」サイト(R3年度末にサイトリニューアルを実施) 閲覧数(年) R5年度: 362,692 pv (R4年度: 341,779pvから増加) 訪問者数(年) R5年度: 57,806人 (R4年度: 47,519人から増加) 投稿数(年) R5年度: 637件 (R4年度: 1,236件から減少) コメント数(年) R5年度: 2,047件 (R4年度: 4,666件から減少)
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagramのフォロワーは増えているが、「もっとメンバーしまね」の新規登録者数は減少傾向が続いている。 ・「もっとメンバーしまね」の投稿・コメントによる交流は、広がりにくい状況が続いている。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの広がりを見せているが、「もっとメンバーしまね」の団員以外の方にサイトの存在を十分周知できていない。 ・投稿する団員が固定化し、新規登録者やライトユーザーには投稿やコメントをしづらい雰囲気があるほか、自ら投稿し交流するよりも情報収集をしたいというニーズが高まっていると考えられる。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・サイト公式SNSを活用し、「もっとメンバーしまね」サイトの周知を図っていく。 ・初めて来訪される(県外の方)が参加してみたいくなるような情報発信や企画を行っていく。 ・新規登録者やライトユーザーなど多くの人が参加しやすいコンテンツの展開を引き続き進める。 ・事業目的に適したプラットフォームはどうあるべきか、今後の方向性について引き続き検討を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

しまね暮らし推進課

事務事業の名称		しまね関係人口・移住促進事業			
目的	誰(何)を対象として	地域への関わりを希望する者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根に関わりたいと希望する人々を掘り起こし、県内での活躍の場を提供して、地域活性化への貢献や将来の移住につなげる。		64,595	79,621
			うち一般財源 (千円)	56,371	79,621
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・関係人口と地域をマッチングする関係人口マッチング・交流サイト「しまっち！」の運営 ・「しまっち！」参加者の滞在型地域活動体験の受入検証 ・定住財団東京サテライト及び県大阪事務所によるセミナー等の開催を通じた関係人口の掘り起こし ・都市部の大学と連携した島根の地域を学ぶ講座の開催、地域活動参加への誘導 ・地域を対象とした研修の開催やアドバイザー派遣による、関係人口受入機運の醸成 ・県出身学生と島根とのつながりを創出・維持するための情報発信やイベント等の開催 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・関係人口セミナー受講者等について参加者を把握し、最終的に「しまっち！」「しまね登録」につながった人数等を確認するなど、統計的なデータとして捉える方策を進める。 			
1	上位の施策	IV-2-(4) 関係人口の拡大	3	上位の施策	
2	上位の施策	III-3-(1) 稼げるまちづくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	しまねアカデミー受講者数【当該年度4月～3月】	目標値		214.0	259.0	304.0	349.0	394.0	人	累計値
		実績値	176.0	218.0	258.0	299.0	343.0			
		達成率	—	101.9	99.7	98.4	98.3	—	%	
2	移住支援東京拠点等での関係人口拡大セミナー累計受講者数【当該年度4月～3月】	目標値		231.0	940.0	1,290.0	1,640.0	2,310.0	人	累計値
		実績値	190.0	697.0	1,162.0	1,657.0	2,292.0			
		達成率	—	301.8	123.7	128.5	139.8	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・「しまっち！」掲載プログラム累計:195件 ・「しまっち！」サポーター登録累計:997件 ・しまね田舎ツーリズム実践者数は、R2年度131件、R3年度140件、R4年度159件、R5年度163件と推移 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・しまねに関わりたいと希望する人の掘り起こしを行う、東京拠点等での関係人口拡大セミナーやしまねアカデミー受講者は増加している。 ・「しまっち！」のオーナー・サポーター登録、マッチング件数は順調に増加しており、ニーズをとらえた取組となっている。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・掘り起こした関係人口に対して、島根と関わる機会を増やし、より関心を深めていく必要がある。 ・「しまっち！」等に参加した関係人口について、関係を深めて運営側に回ってもらうなど、地域づくりの担い手につなげる方策を検討する必要がある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー等で掘り起こした関係人口について、ニーズに沿ったプログラムへの接続が十分にできていない。 ・関係人口を地域活動の担い手として受け入れる際のモデルケースが示せていない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・関係人口セミナー受講者等向けに島根の地域で活動できるプログラムを案内するなど、関係人口の地域づくりへの参画や将来的な移住につなげていく視点での取組を進める。 ・東京イベントへの参画及び「しまっち！」登録促進や関係人口を地域に受け入れる際の支援等の実施により、地域に関わることで島根県との関わりをより深化する。 ・「しまっち！」プログラム参加者について、地域に短期滞在しながら地域活動へ参加してもらうモデル事業を実施し、地域の運営側の役割を担っていく仕組みを検証する。 ・関わりを深めた方の中で将来的な移住に関心がある層については、しまね登録を案内するなど、必要な情報を随時提供する。

